

問題 I

以下の文章を読んで、下線部（ア）から（ス）に関連する設問1から13について、指示に従って番号を選び、マークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

国家機構の能力を測る指標として、軍事力とともに、法の支配、徴税能力などが挙げられる。なかでも効率的に税を徴収する制度を整備することは為政者にとって重要な課題となってきた。

中国では魏晋南北朝時代に法令の体系化が進み、^(ア)北魏の土地制度が隋や唐へ継承され、^(イ)官僚制や^(ウ)税、労役、兵役が一体化された制度が整備されていった。唐代になると、新たな財源を確保するために^(エ)塩の専売が行われ、^(オ)安史の乱後には両税法が制定された。また、^(カ)宋代には社会の実態に即した徴税や人材の登用が行われ、11世紀後半に王安石が新法と呼ばれる改革を行った。明の^(キ)洪武帝は皇帝への集権化を進めた。万暦帝の治世の初期に政治の実権を握った^(ク)張居正は官僚統制を強化し、一条鞭法を制定するなどの財政再建策を実施した。

過酷な徴税や不平等な税制は住民の抵抗を誘発し、体制の弱体化や解体につながる場合がある。例えばアッシリア王国では強大な権力を持つ専制君主が重税を課すなどの圧政を行ったため、服属民の反抗を招いた。アッシリア王国が前612年に滅亡すると、オリエントでは^(ケ)四つの王国が分立した。また、1526年に成立し、その後インドのほぼ全域を支配した^(コ)ムガル帝国では、第3代皇帝アクバルの下で中央集権的機構が整えられ、統治は安定化した。しかし、第6代皇帝アウラングゼーブが税制や寛容な宗教文化政策を転換すると反乱が多発し、彼の死後、帝国は解体へ向かった。

ヨーロッパにおいても重税に対する不満は反乱や抵抗運動を誘発し、社会構造が転換する契機の一つになった。中世の西ヨーロッパでは封建的主従関係と荘園制に基づく封建社会が発展した。しかし、^(ク)14世紀以降様々な政治的混乱や危機が生じ、^(ケ)貨幣経済が浸透したことで封建社会は弱体化していった。経済的に困窮した領主が農民に対する束縛を強化する封建反動と呼ばれる事象が起きるが、それに反発した^(コ)農民は各地で暴動や反乱を起こした。農民反乱の多くは鎮圧されたが、農奴解放や封建制の解体が進むこととなった。

[設問 1]

下線部（ア）に関連して、中国の様々な王朝における土地制度に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 新では王莽が商業を振興し、土地の売買を奨励した。
- [02] 魏では、農業生産力の回復と税収の確保のために耕作者を集団で定住させ、官有地を耕作させる屯田制が実施された。
- [03] 唐では成人女性へ土地の支給は行われなかったが、寡婦の戸主であれば土地が支給された。
- [04] 隋では、北魏で行われたような奴婢や耕牛を対象とした土地の支給はなされなかった。

[設問 2]

下線部（イ）に関連して、中国における官僚制に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 魏が実施した九品中正とは、地方へ派遣された中正官が官吏に適した人材を9等級に分けて推薦し、それに基づいて中央政府の官吏に登用する制度である。
- [02] 国号を周と改めた則天武后は、新興商人層・地主層を科挙官僚に積極的に登用したため、貴族以外の人々も政治の担い手となった。
- [03] 宋代には、出身や身分にかかわらず男子であれば科挙を受験できるようになり、地方で実施される郷試と皇帝が行う殿試が制度化されたが、官職を得るには最後に吏部が行う試験に合格する必要があった。
- [04] 明代・清代の科挙では、三段階の学校試に合格した生員が地方で行われる試験に合格すると挙人になり、挙人が中央の礼部で実施される会試および皇帝による殿試に合格すると進士になった。

[設問 3]

下線部（ウ）に関連して、土地制度、税、労役、兵役に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 西晋では田租に加え、絹布などが戸調として徴収された。
- [02] 魏で実施された三長制は五つの家を隣、5隣を里、5里を党とし、それぞれに隣長、里長、党長を設けた。
- [03] 唐では、当初、府兵制が実施されていたが、農民の逃亡が増加し、制度を維持することが難しくなり、玄宗の治世に募兵制への切り替えが進んだ。
- [04] 唐の諸制度は近隣諸国へ伝えられ、日本では均田制にならって班田収授法が施行された。

[設問 4]

下線部（エ）に関連して、政府や特許会社などによる物品の専売に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 漢の武帝は財政再建のために塩・鉄・酒を専売とし、物価を調整する均輸および平準を実施した。
- [02] 元朝は塩の専売を行ったが、密売の横行により国家はほとんど収入を得られなかった。
- [03] イギリス政府は、茶法に基づき北アメリカのイギリス植民地を対象とする茶の独占販売権をイギリス東インド会社に与えたが、それに反発した植民地側は1774年に開催した大陸会議で茶法を撤回させた。
- [04] イギリス東インド会社は、イギリス政府から付与されていた貿易独占権を段階的に失い、全ての貿易独占権が停止された翌年に会社を解散した。

[設問 5]

下線部（オ）に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 安史の乱は、政治の実権を握った楊貴妃の一族に反発した節度使の主導により引き起こされたものである。
- [02] 安史の乱で洛陽や長安を反乱軍に奪われた唐は危機に陥ったが、ウイグルなどの援助もあって反乱は鎮圧された。
- [03] 安史の乱後、節度使は中国の内地へも派遣され、各地で財政や行政の実権を掌握したことから中央の統制が弱体化した。
- [04] 安史の乱により弱体化した唐は、タラス河畔の戦いでアッパース朝に敗北し、領土の一部を失った。

[設問 6]

下線部 (カ) に関連して、宋代の中国に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (11) (12) にマークしなさい。

- [01] 宋代の江南では、佃戸制の下で形勢戸に対する抗租がたびたび発生していたが、明末からはさらに激化した。
- [02] 王安石は唐の韓愈、柳宗元、宋の欧陽脩、蘇軾などとともに唐宋八大家の一人として知られる名文家であった。
- [03] 新法を採用した第8代皇帝徽宗は「風流天子」と呼ばれた文化人であり、彼が描いた作品に「観音猿鶴図」がある。
- [04] 宋では文治主義の下で文人官僚が重用され、労役の免除などの特権が与えられた。

[設問 7]

下線部 (キ) に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を (13) (14) にマークしなさい。

- [01] 洪武帝は貧農の出身であったが、自らが始めた紅巾の乱を成功させ、明を建てた。
- [02] 洪武帝は元代の諸制度を受け入れず、儒教に基づく社会規範を再確立して社会統制を強化することを試みた。
- [03] 洪武帝は元代に政治を掌握していた中書省を廃止し、内閣大学士を皇帝の補佐に任命し、六部を皇帝直属の行政機関として整備した。
- [04] 洪武帝は民戸と軍戸を戸籍上区別し、軍戸を衛所の管理下に置く衛所制を導入し、5千戸所で1衛が構成された。

[設問 8]

下線部 (ク) に関連して、明代・清代の中国の内政と外交に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を (15) (16) にマークしなさい。

- [01] 元末からの経済的混乱を收拾するため、明は銀と兌換性がある大明宝鈔と呼ばれる紙幣を発行した。
- [02] 明は交易を求めるオイラトのアルタン=ハーンと和解し、海禁を緩和した。
- [03] 顧憲成を指導者とする東林派は、宦官勢力と結んだ非東林派との党争を繰り広げた。
- [04] 雍正帝は、1711年の成人男性の数を定数として、それ以後生まれた人を丁税の対象から外すこととした。

[設問 9]

下線部 (ケ) に関連する記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (17) (18) にマークしなさい。

- [01] カルデア人は新バビロニア王国を建て、ネブカドネザル2世の下でユダ王国を滅ぼした。
- [02] イラン高原を支配したメディア王国はペルセポリスを首都とした。
- [03] 鉱山開発によって台頭したりディア王国はエーゲ海交易によって繁栄し、金と銀の合金で貨幣をつくった。
- [04] エジプトでは第26王朝が勢力を盛り返し、フェニキア人やギリシア人との交易を盛んに行った。

[設問10]

下線部 (コ) に関連して、ムガル帝国時代のインドに関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を (19) (20) にマークしなさい。

- [01] アクバルはアグラを首都とし、マンサブダール制の下で官僚を管理し、世襲化を防ぐために、官僚の役職や給与地を短期間で変更した。
- [02] アクバルは、アッパース朝と同じく、異教徒に対するジズヤを免除した。
- [03] 南インドではヴィジャヤナガル王国が勢力を拡大し、カルカッタなどを支配下に置いた。
- [04] アウラングゼーブの治世下において、ナーディル=シャーが率いるイランの軍勢によってムガル帝国の首都が一時的に包囲された。

[設問11]

下線部 (サ) に関連して、14世紀以降のヨーロッパに関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (21) (22) にマークしなさい。

- [01] 15世紀後半に開催されたヴォルムス帝国議会では、自力救済が禁止され、紛争解決のために帝国裁判所の設置が決定された。
- [02] 14世紀後半、ミラノでは商人組合に対抗するチオンピの反乱が起きた。
- [03] 15世紀後半に勃発したイタリア戦争で、ローマ教皇は当初、神聖ローマ帝国などと結んだが、16世紀に入ると、フランス側についた。
- [04] 軍事革命と呼ばれる武器や戦術の変化は戦費の増大をもたらし、16世紀以降、スペインは国庫の破産を宣言することもあった。

[設問12]

下線部 (シ) に関連して、貨幣に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (23) (24) にマークしなさい。

- [01] 春秋時代の中国で商取引に利用された青銅製の貨幣として刀銭、布銭、蟻鼻銭、五銖銭が挙げられる。
- [02] 唐代の中国では貨幣に加えて送金手形が使用され、宋代では、手形として作られた交子・会子が後に紙幣として流通するようになった。
- [03] ローマ帝国のコンスタンティヌス帝が最初につくったソリドゥス金貨は、ビザンツ帝国によって価値が保証され、地中海圏の基軸通貨となった。
- [04] ウマイヤ朝で最初に発行され、アッパース朝などでも使用されたディーナール金貨は交易を通して西アジアで広く流通した。

[設問13]

下線部 (ス) に関連して、農民の反乱に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (25) (26) にマークしなさい。

- [01] イギリスで起きたワット=タイラーの乱の思想的指導者であったジョン=ボールは、神学者ウィクリフの教会批判に同調していた。
- [02] フランスでは、1789年8月に国民議会が封建的特権の廃止を決定した一方、領主地代の無償廃止には至らなかった。
- [03] フランス革命戦争により苦境に陥った国民公会が募兵を行うことを発表すると、それに反発する農民がフランス西部で反乱を起こし、内乱に発展した。
- [04] ロシアでは、ロマノフ朝期に農奴解放を求めるステンカ=ラージンによる農民反乱が起きたが、エカチェリーナ2世はこれを徹底的に弾圧し、農奴制と貴族の特権を強化した。

問題 II

以下は、中国哲学を専門とする研究者が、東アジアにおける国語とナショナリズムの関係について論じた文章の一節である。これを読んで、下線部（ア）から（シ）に関連する設問1から12について、指示に従って番号を選び、マークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

指摘しておくべきは、東アジアにおける各「国語」の形成が、伝統的にこの地域を覆っていた漢字による書記体系の圏域（漢字圏）からの離脱、あるいはその解体と意識された点である。中国を中心とする東アジア文化圏で、とくに^(ア)外交やコミュニケーションの道具として使われてきたのは、漢字という表意文字であり、書記体系としての漢文であった。ヨーロッパの前近代において、^(イ)ラテン語が、またイスラーム地域においてアラビア語が、国家や民族の間を橋渡しする共通言語になっていたように、東アジアでは^(ウ)漢字古典語が唯一流通可能な広域共通語——リンガ・フランカ（lingua franca）だったのである。しかも、それは^(エ)聖典をバックにもつ「神聖／真正なることば」であると受けとめられていた点、また^(オ)少数の文字エリートの専有物であった点で、やはりラテン語やアラビア語と共通していた。

<中略>

ところで、M. ルターによる聖書の俗語訳が物語るように、^(カ)聖なるラテン語からの「解放」の結果、ヨーロッパの近代諸国語が生み出された。これに対して、東アジアでの民族諸語の「自立」はまた別の路をたどった。まず^(キ)日本、^(ク)韓国、^(ケ)ベトナムといった漢字圏の周辺国では、近代化の統合過程が多かれ少なかれ「脱中華」を志向していたのと並行して、近代「国語」は漢字圏＝中華文化圏からの自立、あるいはその超克として捉えられた。

<中略>

では、漢字圏の中心であった中国で、事態はどのように展開したのか。これについて、私はかつて次のように書いたことがある。

科挙制度の発達により帝国の共通語たる官話がかなり成熟していた中国では、「真実語」の解体が複数の「国語」を成立させるような歴史プロセスをたどらなかった……。五四文学革命の主役を演じた胡適にとって、白話文の流通圏を基盤とする^(コ)「国語」共同体の存在は自明の前提であった。……^(ク)漢字の一元的な表意性のおかげで、帝国固有の言語秩序は近代に至ってもさしたる変化のないまま存続しえたのだ。裏返していえば、五四の言文一致による白話の昇格があったにもかかわらず、国語統一＝国家統合に抗うような地域言語（方言俗語）の自己認定の主張は概して微少であったと見ることができる。要するに、近代中国の国語運動は、^(シ)帝國的秩序からの「解放」を求めた下からのナショナリズムではなかったのである。

<中略>

このように、中国では漢字古典語の伝統的基盤を意識しつつ、連続と断絶の相剋の中から、近代「国語」が練り出されていったのである。

村田雄二郎「序 漢字圏の言語」村田雄二郎・クリスティーン＝ラマール編『漢字圏の近代——ことばと国家』（東京大学出版会、2005年）所収。原文から、参照文献の情報は省略した。なお、引用部分の省略（……）は著者による。

〔設問 1〕

下線部（ア）に関連して、情報などを送り届けるためのインフラストラクチャーの発達も世界を大きく変えてきた。この点に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 19世紀前半に実用化された電信は急速に普及し、19世紀後半にはグラッドストンの呼びかけで万国電信連合が結成された。
- [02] インカ帝国は、首都クスコを中心に道路網を発達させ、そこに駅伝制を整えた。
- [03] アメリカ合衆国における大陸横断鉄道の敷設には多くの中国人労働者が従事したが、激しい差別を受け、後に中国人労働者の入国を禁止する移民法ができた。
- [04] 元代の中国では水陸の交通網が発達し、大都是ジャムチと呼ばれた駅伝制に加え、運河ともつなげられ、船が直接乗り入れられるようになった。

〔設問 2〕

下線部（イ）に関連して、世界史上のラテン語の使用に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 12世紀ルネサンスでは、アラビア語やギリシア語の文献がラテン語に翻訳されたが、その中心地としてコルドバやパレルモが挙げられる。
- [02] カロリング=ルネサンスでは、ラテン語による文化復興が進み、このときにアルファベットの小文字が作られた。
- [03] 『プリンキピア』で万有引力の法則を提示したニュートンは、それが神の存在を示すと考えており、錬金術にも傾倒していた。
- [04] ラテン語はローマ帝国の公用語とされたが、帝国の東部ではコイナーも広く用いられた。

〔設問 3〕

下線部（ウ）に関連して、漢字は殷代から春秋・戦国時代にかけて、一部の官僚だけでなく広大な領域に住む多くの人に使われるようになり、様々な字形が生み出された。この間の中国における動きに関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 殷は、都市国家である邑が集まってできた、有力氏族の連合体であった。
- [02] 戦国時代に登場した易姓革命の考え方では、王朝の交替は「禅譲」と「放伐」のいずれかの形式をとるとされた。
- [03] 春秋時代の初期において、諸侯は「尊王・攘夷」を唱えて周王を支えた。
- [04] 春秋・戦国時代に登場した諸子百家のうち、陰陽五行説を唱えた陰陽家に張儀がいる。

〔設問 4〕

下線部（エ）に関連して、世界史上に登場した諸宗教の聖典や経典に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 高麗では仏教が国教とされ、その経典をまとめた『大蔵経』が刊行された。
- [02] ユダヤ教の聖典は、キリスト教ではユダヤ人と神が交わした古い契約に基づいているとして『旧約聖書』と呼ばれるが、ユダヤ教では『ヘブライ語聖書』と呼ばれる。
- [03] ヒンドゥー教の聖典ともされる『マハーバーラタ』は、後にタイで作られた多くのワヤンに題材を提供した。
- [04] 大乘仏教の成立後、仏教は『リグ=ヴェーダ』に登場する神々を取り込んでいった。

[設問 5]

下線部(オ)に関連して、世界の諸地域に登場した「少数の文字エリート」に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 清代の中国で、顧炎武は王朝に仕えるかたわら、古典の読み解きを通じて社会問題の解決を目指し、その姿勢は考証学を受け継がれた。
- [02] 神と信徒を仲介する聖職者を認めないイスラーム教において、ウラマーは『コーラン』やハディースなどを解釈してシャリーアを示す役割を果たした。
- [03] 中世西ヨーロッパでは、都市の発展とともに大学が組織されていき、主要な大学では神学、法学、医学に加え自由七科が教授された。
- [04] 朝鮮王朝では、両班が官僚の多くを占めるようになり、彼らは清朝への反発から小中華意識を強めた。

[設問 6]

下線部(カ)に関連して、ラテン語からの「解放」が様々な分野でみられたルネサンス期に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 学者や芸術家を支えたメディチ家出身の教皇レオ10世は、サンタ=マリア大聖堂の建設を進めたことで知られる。
- [02] カトリック教会は、この時期唱えられた地動説を排斥したが、プロテスタントのカルヴァンも聖書に根拠がないとして地動説には反対であった。
- [03] この時期に普及した印刷術、火薬、羅針盤について、フランシス=ベーコンは後に『新オルガナム』で、それらが世界のあり方を大きく変えたと主張した。
- [04] トマス=モアは『ユートピア』の中で、イギリスで進んでいた囲い込みを風刺した。

[設問 7]

下線部(キ)に関連して、日本は19世紀後半以降、東アジア地域に積極的に進出したが、それに関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 朝鮮半島では、第2次日韓協約に基づいて統監が設けられ、伊藤博文が初代統監に任命された。
- [02] 台湾出兵をきっかけとして清との緊張を強めた日本は、琉球王国を琉球藩とし、清との冊封・朝貢関係を断絶させた。
- [03] 日清戦争で台湾を獲得した後、日本は台湾総督府を置いて統治した。
- [04] 日本が溥儀を執政に据えて建国させた満洲国では、漢族や朝鮮族など五つの民族の協和が掲げられた。

[設問 8]

下線部(ク)に関連して、朝鮮半島の歴史に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 15世紀に作られた訓民正音がハングルと呼ばれるようになったのは、20世紀に入ってからである。
- [02] 今日の中国国内に残る広開土王碑には、新羅が最盛期を迎えた頃の王の事績が漢字で刻まれている。
- [03] 第一次世界大戦後の三・一独立運動では、民族自決の考え方を踏まえた独立宣言書が発表された。
- [04] 豊臣秀吉による朝鮮への出兵は、朝鮮では壬辰・丁酉の倭乱と呼ばれ、秀吉の死により終わりを迎えた。

[設問 9]

下線部(ケ)に関連して、ベトナムの歴史に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 阮朝を興した阮福暎は、西山の乱で倒された広南王国を支配していた一族の出身である。
- [02] ドンキン義塾を設立したファン=チュー=チンらは、フランスとの提携を通じた近代化を目指した。
- [03] フランスはベトナムの南部を支配下に置いた後、黒旗軍の抵抗を口実に北部に進出してベトナム全土を手に入れた。
- [04] ベトナム北部を中心に発達したサーフィン文化では、銅鼓と呼ばれる独特の青銅器が作られた。

[設問10]

下線部(コ)に関連して、中国ほど特定の言語が支配的にならなかった地域としてインドが挙げられる。インドの諸言語に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] ウルドゥー語は、ムスリムの間でインド北部の地域語にペルシア語などの要素が取り入れられてできたもので、ムガル朝ではアラビア文字で記された。
- [02] タミル語は、インドの南端部の諸王朝で用いられ、それによる文芸活動が盛んに行われた。
- [03] ヒンディー語は、インド南部の口語が統合された共通語であり、今日のインドの公用語の一つになっている。
- [04] もともとバラモンが用いていたサンスクリット語は、グプタ朝の下で公用語になった。

[設問11]

下線部(サ)に関連して、アジア圏では漢字以外にも様々な文字が作られたが、やがて廃れていった。そうした文字に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] 契丹文字は、漢字とウイグル文字の影響を受けて作られたとされる。
- [02] 金で考案された女真文字は、大字と小字の2種類からなる。
- [03] 元ではモンゴル語を書き表すのに、ウイグル文字に加え、チベット文字を基に作られたパクパ文字が用いられた。
- [04] 中国の支配を脱した後、大越では李朝の下で疑似漢字のチュノムが作られた。

[設問12]

下線部(シ)に関連して、第二次世界大戦後の植民地の独立に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- [01] マラヤ連邦は成立当初、シンガポールを領土に含んでいたが、中国系住民の多いこの地域は後に分離独立した。
- [02] エジプトなど七つの国と地域で結成されたアラブ連盟は、アラブの独立と連帯に加え、パレスチナにおけるユダヤ人国家の成立の阻止を目標としていた。
- [03] セイロンは第二次世界大戦後にイギリスの自治領として独立し、その後の憲法制定の際にスリランカと改称して共和国となった。
- [04] インドネシアでは、インドネシア共産党やインドネシア国民党が独立運動を展開したが、第二次世界大戦後にオランダとの戦争を経て、独立が達成された。

問題Ⅲ

以下の文章の空欄 (51) から (56) に入る最も適切な語句を〔語群〕より選び、その番号をマークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。同じ番号の空欄には同じ語句が入る。また、下線部(ア)から(エ)に関連する設問1から4について、指示に従って番号を選び、マークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。設問5の解答は、指示に従って記述式解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

世界史上、東アジアから西アジアに移動した民族として、トルコ人が挙げられる。トルコ人は、もともとモンゴル高原で遊牧生活をしてきたが、この地域を支配していたトルコ系王朝が9世紀に滅亡した頃から、イスラーム世界の諸王朝の奴隷軍人として中央アジアや西アジアに流入した。^(ア)トルコ系の奴隷軍人としてこれらの地域に進出した者のなかからは、自らの王朝を建てる者も現れた。^(イ)11世紀後半に起こった戦いでビザンツ帝国を破った王朝の一族は、(51) (52) に独立した王朝を築き、この地域のトルコ化に寄与した。この王朝は、モンゴル軍の攻撃を受けて13世紀後半には衰退した。これにより権力の空白が生じた (51) (52) では、多数の勢力が割拠する状態となった。そのなかで頭角を現したのが、^(ウ)オスマン朝である。

(51) (52) の北西部を本拠地としていたオスマン朝はバルカン半島に勢力を拡大し、14世紀後半にはバルカン半島東南部の (53) (54) を占領して、そこを首都とした。14世紀末には (55) (56) の戦いでヨーロッパ諸国の連合軍に勝利してドナウ川下流域を支配し、1453年にはコンスタンティノープルを陥落させ、ビザンツ帝国を滅ぼした。16世紀に入ると、オスマン朝はさらに支配領域を拡大した。1514年には、サファヴィー朝との戦いに勝利し、(51) (52) の東部を支配下に入れた。また、^(エ)シリアやエジプトを支配していた王朝を滅ぼし、イスラーム教の二つの聖都の保護権も獲得した。

〔語群〕

- | | | | |
|----------------|--------------|-------------|-----------|
| 01. アイン=ジャールート | 02. アドリアノーブル | 03. アナトリア | 04. アルメニア |
| 05. イズミール | 06. イラク | 07. イラン | 08. カフカス |
| 09. コソヴォ | 10. ザグレブ | 11. シナイ | 12. スコピエ |
| 13. ソフィア | 14. チャルディラン | 15. テッサロニケ | 16. ニコポリス |
| 17. プレヴェザ | 18. ベオグラード | 19. マラーズギルド | 20. モハーチ |
| 21. レバノン | 22. レバント | | |

〔設問1〕

下線部(ア)に関連して、トルコ系王朝に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を (57) (58) にマークしなさい。

- [01] 10世紀末にサーマーン朝を滅ぼしたカラハン朝は、12世紀に西夏によって滅ぼされた。
- [02] 10世紀後半にホラズム=シャー朝の奴隷軍人が独立して建てたガズナ朝は、インド北部に侵入を繰り返した。
- [03] ガズナ朝の将軍であったアイバクは、デリーを首都とする王朝を建てた。
- [04] 奴隷王朝を倒したハルジー朝は、南インドに侵攻した。

〔設問2〕

下線部(イ)の王朝に関連する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (59) (60) にマークしなさい。

- [01] この王朝は、シーア派のイラン系王朝を追放した後のバグダードに入城した。
- [02] この王朝は、十字軍と戦い、イェルサレムを奪還した。
- [03] この王朝の創始者は、カリフからスルタンの称号を授けられた。
- [04] この王朝のイラン人宰相が創設したマドラサで学んだガザリーは、スーフィズムを理論化した。

〔設問3〕

下線部(ウ)に関連して、オスマン朝の政治・文化に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を (61) (62) にマークしなさい。

- [01] 16世紀半ばに、この王朝の首都に世界初とされるコーヒーハウスが開店し、男性の社交と娯楽の場となった。
- [02] 農村では、アーヤーンの下でエスナーフと呼ばれる生産者組合が作られた。
- [03] 中央政府の要職は、トルコ系イスラーム教徒によって占められた。
- [04] ビザンツ帝国時代に建てられたハギア=ソフィア聖堂は、オスマン朝によるコンスタンティノープル占領後、異教の象徴として取り壊された。

〔設問4〕

下線部(エ)の王朝に関連する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を (63) (64) にマークしなさい。

- [01] モンゴル軍をシリアから撃退した戦いで功績を挙げたバイバルスは、第5代スルタンとなった。
- [02] この王朝の首都は、香辛料や陶磁器などを扱うカーリミー商人による海上交易の中心地として栄えた。
- [03] 『世界史序説』の著者として知られるイブン=ハルドゥーンは、この王朝を含むいくつかの王朝に仕え、マドラサでも教えた。
- [04] この王朝はサハラ砂漠の南への遠征を行い、ガーナ王国に侵攻した。

〔設問5〕

14世紀後半から16世紀末に至るまでの間のオスマン軍の主力は、2種類の兵から構成されていた。それらは、それぞれどのような特徴を持ち、どのような制度に基づき軍役に就いていたのか、また、このうちの一つの種類の兵は16世紀末頃から衰退していったが、どちらの種類の兵がどのような軍事上の変化のために衰退していったのか、あわせて200字以内で説明しなさい。解答は記述式解答用紙の所定の欄に記入すること。

問題 IV

以下の文章を読んで、下線部（ア）から（オ）に関連する設問1から5について、指示に従って番号を選び、マークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、二重下線部については、設問6の指示に従って記述式解答用紙の所定の欄に解答しなさい。

^(ア)17世紀にはヨーロッパ各地で社会や政治の混乱がみられた。そのなかで、ヨーロッパの大半の地域を巻き込み、主権国家体制の形成につながったのが、当初は宗教戦争として始まった三十年戦争である。この戦争はウェストファリア条約の締結によってようやく終結し、ドイツの領邦君主には主権が認められた一方、神聖ローマ帝国による支配は形骸化した。主戦場となったドイツでは人口が減少して商工業も停滞したが、そうしたなかで戦禍の影響をあまり受けなかった

^(イ)プロイセンとオーストリアが台頭することになる。

ヨーロッパにおけるこうした混乱の下でも繁栄を継続していたのが^(ウ)オランダである。国際商業力を大きく伸ばしたオランダは積極的に海外への進出を図り、アジアで支配を拡大しようとした^(エ)イギリスと競合するようになる。その間イギリスでは、国王の処刑に至る内乱が起き、共和政を経て王政復古が行われるなど、政治的・社会的混乱が生じた。

17世紀以降、「太陽の沈まぬ帝国」とも称された^(オ)スペインが徐々に覇権を失っていった一方で、イギリスとフランスはヨーロッパのみならず北アメリカやインドの支配をめぐりたびたび戦争状態に陥った。^(カ)中世以来イギリスとフランスは戦争を繰り返してきたが、17世紀末から100年以上に及んだ両国の争いは第2次英仏百年戦争と呼ばれている。

〔設問1〕

下線部（ア）に関連して、以下の〔01〕から〔05〕の出来事を早い年代から順に並べたとき、4番目にあたるものの番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 政府は、個々人の自然権を守るために社会契約によって形成され、それが破られたときには人民の抵抗権の行使が正当化されると説くロックの『統治二論』が出版された。
- 〔02〕 「万人の万人に対する闘争」と表現される無政府状態の混乱を防ぐには、国家の絶対的な権力が必要であると説くホッブズの『リヴァイアサン』が出版された。
- 〔03〕 マザランがフランスで推し進めた中央集権化政策への不満から、高等法院は政策の撤回を求め、その後の混乱のなかで民衆が蜂起し、フロンドの乱が始まった。
- 〔04〕 動乱時代のロシアで、ミハイル=ロマノフがツァーリに選出され、ロマノフ朝が成立した。
- 〔05〕 イギリス議会は国教会体制を強化するため、国教徒以外の者が公職に就くことを禁じる審査法を制定した。

〔設問2〕

下線部（イ）に関連して、プロイセンとオーストリアの歴史に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 プロイセンは、ドイツ騎士団領をもとに成立したプロイセン公国とホーエンツォレルン家のザクセン選帝侯国が合併してできた領邦で、18世紀初頭に王国となった。
- 〔02〕 プロイセンのフリードリヒ2世はユンカーの農奴支配を認め、彼らを中央政府に登用して官僚制を強化し、フランスでナントの王令が廃止されると、亡命してきたユグノーを受け入れて産業育成に活用した。
- 〔03〕 オーストリアはカルロヴィッツ条約でオスマン帝国からハンガリーを獲得し、18世紀に入るとラシュタット条約でスペイン領ネーデルラントを手に入れた。
- 〔04〕 ヨーゼフ2世は神聖ローマ皇帝に即位した後、フランスと同盟を結んでプロイセンと戦い、シュレジエンの奪還には失敗したが、宗教寛容令を出すなど内政上の改革を進めた。

〔設問3〕

下線部（ウ）に関する以下の記述のうち、正しいものを選び、その番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 オランダは北アメリカに進出してニューアムステルダムを建設したが、それに先駆けてアフリカにケープ植民地を開き、環大西洋交易の拠点とした。
- 〔02〕 フェリペ2世の強圧的な統治が引き金となって始まった独立戦争では、ホラント州を中心とした北部10州とカトリックが支配的な南部7州が分離した。
- 〔03〕 オランダは1609年にスペインと休戦して事実上の独立を果たしたが、ウェストファリア条約により独立が国際的に承認されるまで独立戦争の勃発から80年を要した。
- 〔04〕 『海洋自由論』や『戦争と平和の法』を著したグロティウスは、オランダがスペインとトルデシリャス条約を結んで海外領土分割を決定したことに批判的だった。

〔設問4〕

下線部（エ）に関する以下の記述のうち、誤っているものを選び、その番号を にマークしなさい。

- 〔01〕 スペインのフェリペ2世がポルトガルの王位を継承したことで、両国の同君連合が成立したが、17世紀にはポルトガルで独立戦争が起き、同世紀のうちにその独立は承認された。
- 〔02〕 ユトレヒト条約により、フランスはブルボン家からスペイン王を出すことを承認された一方で、イギリスにハドソン湾一帯やアカディアを奪われた。
- 〔03〕 度重なる戦争で財政破綻の危機に直面したフランスでは、重商主義者テュルゴが財務総監に任じられて財政再建に取り組んだが、特権身分の抵抗にあい失敗に終わった。
- 〔04〕 イギリスは、イングランド銀行の設立により、ルイ14世の下でヨーロッパ最大の陸軍力を誇るフランスとの戦争のための資金調達が容易になった。

[設問 5]

下線部(オ)に関連して、百年戦争について書かれた以下の文章の空欄(73) (74) から(77) (78)に入る最も適切な語句を〔語群〕より選び、その番号をマークシート解答用紙の所定の欄にマークしなさい。なお、同じ番号の空欄には同じ語句が入る。

フランスの王位を継承したフィリップ6世が、12世紀以来イングランド王によって領有されていた(73) (74)地方の没収を宣言すると、イングランド王(75) (76)は母親が(77) (78)家出身であることを理由に王位継承権を主張してフランスに侵攻した。戦局はイングランドの優勢で進んだが、ジャンヌ=ダルクの活躍によりオルレアンの包囲が突破されるとフランスは攻勢に転じ、(73) (74)地方の中心都市ボルドーを奪還して戦争を終結させた。

〔語群〕

- | | | | |
|--------------|------------|-------------|-------------|
| 01. アルビジョワ | 02. アンジュー | 03. ヴァロワ | 04. エドワード2世 |
| 05. エドワード3世 | 06. カペー | 07. カロリング | 08. ギエンヌ |
| 09. シャルトル | 10. シャルル7世 | 11. テューダー | 12. ノルマンディー |
| 13. ブランタジネット | 14. ブルゴーニュ | 15. プルターニュ | 16. ヘンリ2世 |
| 17. ヘンリ4世 | 18. ランカスター | 19. リチャード2世 | 20. リチャード3世 |

[設問 6]

12ページの文章の二重下線部に関連して、17世紀前半のアジアにおけるオランダとイギリスの競合と、17世紀後半のヨーロッパにおけるオランダとイギリスの関係について、あわせて240字以内で説明しなさい。

なお、解答にあたっては、東南アジアとその周辺地域の地図のAからDの各地名に、対応するアルファベットを併記する形で言及し(例:「Xマレー半島では……」のように書く)、また1651年と1689年のそれぞれに起きた出来事に、その年号とともに言及すること。

